

## でんぷん原料用甘藷生産の実態と展開方向

久保田哲史・\*関沢畜朗（九州農業試験場・\*農業研究センター）

Tetsufumi KUBOTA and Jirou SEKIZAWA : The Actual and direction for the Future of Starch Sweet Potato Production

## 1. はじめに

南九州の主要農作物であるでんぷん原料用甘しょ（以下、でんぷん甘しょと略）生産において、近年、取引指導価格の低下に伴い収益性の著しい低下がみられる。

前回の報告（「生産費調査からみたでんぷん原料用甘しょ作の特徴」）九州農業研究・第54号、1992）では、収益性低下の要因を生産費の下方硬直性に求め、その原因を明らかにした。本報告では、鹿児島県鹿屋市をフィールドに設定し、15戸の生産農家から得たデータをもとに将来の展開方向を示唆する。

## 2. 調査農家の生産実態分析

各調査農家は、15戸中1戸を除いてでんぷん甘しょ以外にも繁殖牛や野菜、たばこ等を経営内に導入している複合経営農家である。しかも、11戸がでんぷん甘しょ以外の作目を経営の首位部門としている。つまり、でんぷん甘しょは安定的副次部門として経営内に位置づけられている。

また、8戸の農家で、雇用や結が行われている。この経営外からの労働力は、主としてでんぷん甘しょの収穫作業に利用されている。

調査農家のうち10戸の農家から生産費データを得ることができた。第1表からわかるとおり、各農家間で生産費はかなりばらついている。作付面積に関して規模の経済性もみられない。ただ、いずれの農家も労働費が生産費の中で最も大きな割合を占めており、とくに10戸中5戸の農家では労働費割合が過半数を越えている。

労働時間に関して8戸の農家から作業別データを得ることができた（第2表）。いずれの農家も収穫作業が労働ピークとなっている。また、採苗や定植といった作業にも多くの労働時間がかけられている。労働ピークを形成しているこれらの作業は、機械化がほとんど進展していない。でんぷん甘しょ生産の機械体系に関しては、7

戸の農家からデータを得ることができた。いずれの農家についても、採苗・植え付けは全く機械化されておらず、収穫作業も調整やカマズ詰めといった行程までは機械化が進んでいない。また、作付面積の違いによる機械体系の差もみられない。

以上のことから、農家はでんぷん甘しょを経営内の安定的副次部門として位置づけており、収穫等の多労を要する作業については、経営外からの労力補充で対応しながら生産活動を行なっていることが明らかになった。また、機械化の遅れによって、作付面積に関して規模の経済性も発現していないことも明らかとなった。

## 3. でんぷん甘しょ生産の展開方向

現在の技術体系を所与とすると、労働力と収益性の側面から個別大規模な展開は難しい。ただ、でんぷん甘しょは非常に低い水準ながら生産農家に安定的な所得をもたらす。不安定な市場と南九州独特の厳しい気象条件に対峙する生産農家にとって、でんぷん甘しょは経営の安定に関して重要な役割を持つ。経営の危機分散や土地の有効利用の観点から、副次部門として経営内に位置づけていくことが望ましい。そして、収穫等の労働ピークの軽減や機械設備費の削減のために農家の組織化や農協等の作業受託体制を整えていく必要がある。

第2表 調査農家の作業別労働時間 (h/10a)

農家番号	伏せ込み 手摺	伏せ込み	育苗 管理	表記	播種 数除	整地・ マルチ	採苗	定植	除草	害虫 駆除	収穫	合計
1	1.9	1.3	6.3	1.5	-	4.4	12.0	6.0	2.0	1.3	27.0	63.7
3	1.2	2.7	0.3	3.0	-	4.8	16.0	8.0	1.5	2.5	18.5	58.5
4	4.4	2.8	3.1	8.0	6.0	17.0	12.4	16.0	3.0	2.0	57.0	131.7
6	0.6	2.0	1.8	8.0	-	6.3	6.0	10.0	0.5	0.7	32.0	67.9
8	0.9	1.6	3.2	1.6	1.0	7.5	10.0	5.0	1.0	0.3	17.4	49.5
9	1.1	2.0	1.4	0.7	1.7	4.0	6.7	4.0	1.0	0.6	32.5	55.7
10	0.9	1.6	2.1	0.7	1.0	6.5	4.0	8.0	2.7	2.0	17.0	46.5
15	1.4	1.6	1.2	2.3	2.3	5.3	6.9	4.7	4.9	3.2	17.4	51.2

第1表 調査農家におけるでんぷん甘しょ10a当たり生産費

(円)

農家番号	1	3	4	6	8	9	10	13	14	15	生産費1990
作付面積(a)	180	60	85	50	106	171	103	60	66	175	42.2
収量(kg)	3,880	3,200	4,000	3,600	3,800	3,160	3,400	4,569	3,103	3,737	2,773
機械設備費	15,060	33,638	22,869	15,911	17,438	32,248	33,362	13,522	13,360	16,313	15,474
その他物財費	30,555	34,119	36,106	19,459	37,403	36,196	38,413	57,354	34,952	17,157	21,143
雇用労賃					3,254		3,106	8,750			1,968
家族労賃	50,753	46,610	104,932	54,100	34,261	44,379	33,225	37,686	56,729	40,794	57,443
第1次生産費	96,368	114,367	163,907	89,470	92,356	112,823	108,106	117,312	105,041	74,264	96,016
kg当1次生産費	24.8	35.7	41.0	24.9	24.3	35.7	31.8	25.7	33.9	19.9	34.6

注) 「生産費1990」は農林水産省統計情報部『平成2年産工芸農作物等の生産費』のデータである。